

2024 年度 第 1 回運営推進会議

2024 年 10 月 29 日（火）

認知症対応型通所介護

渋谷区かなみの杜・渋谷

管理者 川村英詳

参加者：渋谷区かなみの杜・渋谷 管理者 川村 1 名
 渋谷区かなみの杜・渋谷 地域包括支援センター 1 名
 利用者様のご家族様 A 様 1 名

運営推進会議の趣旨

I．運営推進会議の目的

- 1.事業所運営の透明性の確保
- 2.サービスの質の確保
- 3.事業所による「困い込み」の防止
- 4.地域との連携の確保

II．地域密着型サービスの役割

- ① 本人本位の支援
- ② 継続的な支援
- ③ 地域で暮らし続けることの支援
- ④ 地域との支えあい等を理念とする地域密着型サービスは、入居者・利用者のより良い暮らしを着眼点に本人と地域との関係を断ち切らない支援

上記の役割を担うため、事業所と地域との良好な関係を築き、事業所が提供するサービスが、住民ニーズに即した価値のある地域資源として機能していく必要がある。利用者がどのような暮らしを望み、これからサービスを利用するかもしれない住民が何を期待しているのかを知らなければならない。

運営推進会議は、事業所と地域との関係をつなぐ一つの手段であり、地域密着型サービスを「事業所と地域住民とが一緒に育てていくことを目的に行っていく。

3. 認知症対応型通所介護

● 2024 年 4 月 1 日～8 月 31 日 までの状況

新規利用者	契約終了者	在籍者
0 名	0 名	3 名（男性 0 名・女性 3 名）

稼働率は低いものとなっている。今後は新規のご相談を積極的に受け付けることにより稼働率を上げていくことに注力する。新しく利用されている方はいらっしゃるが、今後少しずつでも増やしていく。

職員体制の整備が主な対策となる。

● 平均年齢と平均介護度

平均年齢	平均介護度
81.0 歳	4. 7

● 認知症高齢者日常生活自立度

自立度	I	II a	II b	III a	III b	IV	M
人数	0	0	0	0	0	3	0

I	「何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内および社会的にほぼ自立している状態」 基本的には在宅で自立した生活が可能なレベルです。
II a	「日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが家庭外で多少見られても、誰かが注意していれば自立できる状態」
II b	「日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが家庭内で見られるようになるが、誰かが注意していれば自立できる状態」
III a	「日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが主に日中を中心に見られ、介護を必要とする状態」
III b	判断基準「日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが夜間にも見られるようになり、介護を必要とする状態」
IV	「日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする状態」
M	「著しい精神症状や周辺症状あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする状態」

●職員体制

入職者・異動職員	退職者・異動職員	職員数
入職者＝0名 異動者＝0名	なし	6名 (管理者、生活相談員、介護職員2、看護師)

職員の体制は前年度から変わっていない。

●事故・苦情の発生状況

認知症対応型通所介護では送迎中に車イスから転落するという事故が1件あった。

自宅にお送りするために利用者様を乗せた車が住宅街の路上を走行中に、子供が飛び出してきたため急ブレーキを踏んだ。子供に衝突することは避けられたが、車イスで乗車していた利用者様が急ブレーキの衝撃で車イスから転落したと考えられる。利用者様の前額部に腫れができてしまった。後日受診をした結果、脳の内部に異常は見られなかった。

事故当日の乗車時にシートベルトを職員が掛けていたが、事故発生時にはシートベルトが外れていた。

原因はシートベルトが何らかの原因で外れたのか、シートベルトが十分に掛けられていなかったことが推測される。

同乗の職員がシートベルトを掛けた際には運転手が再度確認するということを対策とした。

以後同様の事故は発生していない。

苦情は頂いていない。

サービスが終了して自宅に帰る直前に排泄の介助に入ってもらえると自宅での負担が減るためお願いしたいとのご要望があった。

●ご家族からの声など

	内 容
A 様（仮名）	自宅に上がるまでに階段があり、本人は歩くことが全くできない。 デイサービスに行くときは車イスで階段を降ろすのを手伝ってもらい、デイサービスから帰ってきたときには車イスで階段を上がるのを手伝ってもらって助かっています。 今後ともぜひお手伝いをお願いしたいです。